

授業改善等に関する報告書（2024年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2024（前期）食生活科学科 管理栄養士専攻】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ライフステージ栄養学 b	於保 祐子	ライフステージに合わせた栄養の取り方を、成人期から高齢期、スポーツやストレス時の理解を基礎として学びます。この科目では授業中に集中して理解を深められるように講義形式を工夫しています。更に発展的学修につながるよう教材等を工夫したいと思います。
栄養マネジメント実習	森川 希	授業内容と方法についての評価は、管理栄養士専攻専門科目の平均とほぼ同等でした。 ダグラスバッグによるエネルギー代謝の測定では、感染予防対策を継続し各回の測定者数を限定して実施しました。アンケートからは、エネルギー代謝の測定や計算、食事調査実習など実践的な内容についてのコメントを多くいただきました。 今年度の新たな試みとして、授業資料のペーパーレス化方針が示されたことを受け、実習資料の一部はPDF配信としました。これに関して直接のご意見はありませんでしたが、実習机がやや手狭な印象でした。また、実習室の座席位置によってはスクリーンに背を向けなければならない、メモを取ることが難しいとのご意見がありました。座席配置は例年通りであったものの、各自がノートPCを開いて受講する形式であったため、メモをとることが例年よりも難しくなったものと思います。メモをとることを前提としない資料配信も対応の一つと考えられますが、授業効果の観点からは書き込みできる紙ベースの資料が望ましいように感じています。次年度の実施方法については、大学方針に縛られず、学生さんのご意見を参考に見直しを検討したいと思います。
栄養マネジメント論	高橋 加代子 森川 希	この授業は専門的な領域になってきますので、単語を覚えながら、全体を理解することになりますので、大変だったと思います。そのため、実践現場の経験や症例を取り混ぜて説明し、イメージができるように心がけました。それを「雑談」と捉えていた方がいますが、そのことで印象に残り、記憶できることが狙いですので、学びに繋がることを期待していますのでご理解ください。また、この授業は試験のためだけのものではなく、知識として必要であり学期末試験にも国試にも求められる内容です。試験対策的な発想ではなく、幅広い知識や技能の習得という視点で捉え、学びを深めてください。 レジュメの誤字については気をつけます。 この授業では、来年度の校外実習に向けて、普段の行動で実習中に注意されることで皆さん方が気づけていない点を説明しています。「遅刻に厳しい」とのコメントがありますが、実習に限らず、「遅刻はしない」ことが社会通念として必要です。体調不良など事情はあると思いますが、体調管理を整えることも実習では必要とされ、遅刻をしない努力が求められます。授業評価に「平常点」があり、授業態度として遅刻も該当することを説明していますし、遅刻の多い方は社会では動意評価の項目にも必ず含まれており、ルールを順守できるかに繋がっていることを理解してくれるとよいでしょう。遅刻はしないという認識をもち、後期は遅刻しないように頑張りましょう。 食事摂取基準に関する範囲は、少し応用的な内容を含んでおり、難しかったと思います。アンケートでのご指摘はありませんでしたが、問題を解く時間が十分に確保できなかった回があり反省しています。 便宜性を高めるため、今年度は穴埋めプリントを使用しました。授業スライド（パワーポイント）もmanabaコースコンテンツで配信していますので、必要に応じてご利用いただければと思います。（森川）
栄養教育各論 a	辛島 順子	「栄養教育各論a」では、管理栄養士が栄養教育や栄養指導を行う際に必要な行動科学理論やカウンセリングを中心に学びました。事例を考えることや各回の予習・復習課題に取り組むことで理解ができたという意見もいただきました。3年次の「栄養教育論実習a・b」においては、「栄養教育各論a」で学んだ理論や技術を用いて実習を行います。これらの学びを総合して、今後の臨地実習でさらに理解を深めてください。
栄養教育論実習 a	辛島 順子	「栄養教育論実習a」では、2年次に学んだ行動科学理論やカウンセリングを実際の栄養教育現場で活用するための実習を行いました。実際に栄養教育計画を立案することやロールプレイを行うことで難しさを経験したことや学生間の相互評価により学びを得たこと、アウトプットの機会が多かったことでこれまで学んだことの理解が深まったようです。今後の学内実習においても、実際の管理栄養士の仕事を想定した実習を行います。
栄養生理学（運動生理学を含む）	筧 慎治	栄養生理学は解剖生理学aとちがいで、主に分子レベルの流れや働きに関するやや抽象的なものなので、十分に理解するには自分の頭の中で新しい知識を整理し組み立てる作業が欠かせません。生理学だけでなく、栄養学、生化学の知識も必要であり、高校を卒業したばかりの1年生にとって易しい科目ではありません。アンケート結果を見ると、皆さんが自ら栄養生理学以外に他の教科の講義内容と関連させて理解を深めていたことがうかがえ、感心しました。なお、期末テストは高得点続出で、全員合格でした。 自分の滑舌があまりよくないため、講義のビデオをアップロードしています。直接の評価の記載はありませんでしたが、今後も続けていきたいと思っています。 なお、昨年度はスポーツ栄養学に関する講義内容についての反響が多く、皆さんのスポーツ栄養学やスポーツ生理学への関心と要望が高いことがわかりましたので、今年度の講義に反映させました。

【2024（前期）食生活科学科 管理栄養士専攻】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
解剖生理学 a	寛 慎治	解剖生理学aは、図を見ればすぐにわかるものではなく、見て理解したことを自分の頭の中で組み立てる、抽象的な作業も必要です。学修していただいた知識量も多く、易しい科目ではありませんが、多くの学生さんに関心を持って学んでいただけたようで安心しました。内容的には、普通の栄養系の教科書より深い内容を、枝葉は省略した上でお話ししましたが、期末テストの好成績から判断して、よく理解していただけたようです。講義のビデオのアップロードは、これまでと同様に好評でしたので、後期の解剖生理学bでも同じ対応をしていきます。 解剖生理学aは主に人体の構造（肉眼レベルから分子レベルまで）についてお話ししましたが、後期の解剖生理学bでは、その構造の知識を基礎に、様々な生理学的な機能（ダイナミックに生命が躍動する様子）についてより深くお話ししていく予定です。
解剖生理学実験	寛 慎治	皆さんが毎回真剣に講義と実習に取り組んでくれましたので、教員として大変楽しく講義を行えました。レポートもよく考えられたものが多く感心しました。アンケートでは授業内容等に概ね満足していただけたという回答がほとんどを占め、安堵致しました。今後わかりやすさの改善に取り組みます。とはいえ、最初の説明の時間が長いという印象を持たれた方もあったようですので、簡潔にして要を得た説明をもっと心掛けたいと思います。 感想の中には、「それぞれの細胞の構造や働きについて、座学の時の知識がより一層深まった。」「人体の構造についてより知識が深まった」とともに、これからの授業に役立てられるような基礎的な知識を身につけることができた。」というものもありました。解剖の実験は、初めての哺乳類の解剖に緊張した学生さんも少なくなかったと思いますが、多くの皆さんのレポートからは、様々な臓器がつながってはたらく生命を感じ取る貴重な機会になったことが読み取れました。皆さんが管理栄養士として活躍されるときに、この経験が生きることを祈っています。
解剖生理学実験	寛 慎治	皆さんが毎回真剣に講義と実習に取り組んでくれましたので、教員として大変楽しく講義を行えました。レポートもよく考えられたものが多く感心しました。アンケートでは授業内容等に概ね満足していただけたという回答がほとんどを占め、安堵致しました。今後わかりやすさの改善に取り組みます。とはいえ、最初の説明の時間が長いという印象を持たれた方もあったようですので、簡潔にして要を得た説明をもっと心掛けたいと思います。 感想の中には、「それぞれの細胞の構造や働きについて、座学の時の知識がより一層深まった。」「人体の構造についてより知識が深まった」とともに、これからの授業に役立てられるような基礎的な知識を身につけることができた。」というものもありました。解剖の実験は、初めての哺乳類の解剖に緊張した学生さんも少なくなかったと思いますが、多くの皆さんのレポートからは、様々な臓器がつながってはたらく生命を感じ取る貴重な機会になったことが読み取れました。皆さんが管理栄養士として活躍されるときに、この経験が生きることを祈っています。
基礎栄養学	中村 彰男	栄養学を学ぶために、「基礎栄養学」は「生物学」「生化学」「生理学」を基礎とした非常に重要な基幹講義の1つです。特に、「管理栄養士の国家試験」においても大変重要な部分となっています。期末試験の平均点も非常に高く、難しい科目を皆さんよく学べたと思います。大学での学びはそれを実社会や生活に活用することが大切です。皆さんは「基礎栄養学」得られた知識をもとにさらにそこからさまざまな問題点や疑問をもち、さらに多くのことを「学問」を通して学びを続けて行きましょう。
基礎栄養学実習	中村 彰男 鈴木 浩明	「基礎栄養学実習」は3時限続きの実習で皆さん大変だったと思います。中学や高校でもカリキュラムの都合で実験や観察の時間が大幅に削減されています。これは大学においても同じです。しかしながら、「基礎栄養学実習」では、皆さんが、実習を通して多くの観察眼や自分で考える力を養うことに重点をおいています。答えが用意されているものや直ぐに解答が得られる環境に慣れていると、なかなか自分で主体的に考える能力が養えません。この実習では、確かに実験が上手くなって欲しいと言う気持ちはありますが、そこが目的ではありません。答えのないものを自らの観察と考察で自分なりに納得がいく答えに見出していくことが大切だと思っています。失敗しても構いません。そのプロセスを大切に、失敗を次の糧にすることの方が大切です。レポートも大変だったと思いますが、それは自分で考えたプロセスを報告書にするという意味で、皆さんが社会に出たときに大切な学びとなります。そして、この実習では3人から4人がグループになって実習を行うので、班員の協力も大切です。これも社会に出てからの協働につながります。3時限続きの実習の準備をしていただいている助手さんも大変な仕事だと思います。もし、何かわからないこと、問題点ががあれば、まずは教員に聞いてください。答えを求めた際に直ぐに答えてくれない場合もあるとは思いますが、それは皆さんに考えて欲しいという意味です。決して答えの出し惜しみしているわけではありません。社会に出てから、大変だった「基礎栄養学実習」はきっと忘れられない大学の良い思い出となり、皆さんの「主体的に学ぶ力」の糧になっていると信じています。

【2024（前期）食生活科学科 管理栄養士専攻】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
基礎化学	山崎 壮	食生活科学科の3専攻で同一内容の「基礎化学」の授業を行っています。食物科学専攻（以下、食物）のみ必修で、管理栄養士専攻（以下、管理）と健康栄養専攻（以下、健康）では選択です。選択科目でも履修率が高いです。授業アンケート結果では、管理と健康の評価結果が専門科目全体の平均ポイントとほぼ等しかったのに対して、食物の評価結果は、ほぼすべての項目で専門科目全体の平均ポイントよりも大幅に低かったです。特に、①説明のわかりやすさ、②この科目・分野をさらに学びたいか、の低さが目立ちました。アンケートの自由記載欄を読むと、3専攻すべてで化学の知識が深まってよかったとのプラス評価が何人からも寄せられているので、この科目に興味を感じた学生が一定割合存在する一方で、食物では化学自体に興味を持たない学生の割合が高いと考えられます。 「基礎化学」では、栄養学と食品化学の専門科目を履修するために必要となる基礎知識を取り上げています。3専攻の中で最も理系の色彩が強い管理の学生にはぜひ「基礎化学」を履修してほしいですが、食物と健康の学生は、「基礎化学」を履修してみて化学に興味を持てなかったならば、経営・ビジネス分野などに自分が興味を持てる領域を見つけ出し、その領域の勉強に自分のエネルギーを投入して行ってほしいです。
基礎調理 1	佐藤 幸子	皆さん自身が授業通して成長できたと感じてくださったことは、とても重要です。興味を持って、調理をすることを楽しんで後期の授業も進めていきましょう。そのためには、まず衛生管理に気を付けて、授業ルールを守り、タイムスケジュールをイメージして進めていくことを目標にしていきたいと思います。
基礎調理 2	中川 裕子	デモを集中して聴く姿勢やチームワークの良さから、完成度が高い料理を作ることができていました。おいしかったという感想がみられたので、給食や応用調理の実習で更に深い学びができることを期待します。
給食マネジメント実習	山岸 博美	後期も引き続きよろしくお願いします。
給食経営管理 b	山岸 博美	引き続き、これらの知識を実習に生かしてください。
健康管理論	佐々木 溪円	授業中に説明した点と重複しますが、この授業は国試としてのポイントと、管理栄養士として働くためのポイントの両方をお伝えしています。前者は1) 毎回の最後のスライド「今日のポイント」を参照する、2) 赤文字や赤字穴埋めで強調した部分、3) 授業中に国試として重要とお伝えした点です。後者は、授業中に管理栄養士として働くときに重要などと伝えた点です。 本試験では、国試としてのポイントを出題しています。本試験の結果は全体的に高得点でしたので、全員がポイントを理解して授業の到達目標に達していますので、自信をもって後期以降も学習してください。 なお、スライドによっては赤字がなく、すべて青文字の場合があります。例えば、他のスライドに向けた導入としての位置づけのスライドであれば、赤字がないことの整合性が得られるでしょう。
公衆栄養学 b	森川 希	授業内容と方法についての評価は、管理栄養士専攻専門科目の平均とほぼ同等でした。 今年度の新たな試みとして、授業資料のペーパーレス化方針が示されたことを受け、一部の資料についてはPDFファイル配信とし、小テストもmanabaで実施しました。難易度の高い「栄養疫学」の回については、例年同様に計算作業を取り入れるようにしました。 これについては特に不便との意見は見られなかったため、次年度以降も様子をみながら継続しようと思います。 個別の意見としては、「保健所実習に役立った」との意見が多数ありました。 また、授業資料を事前印刷したいため前日までに配信してほしいとのご意見がありました。配布プリントの電子版については、できるだけ前日までに配信しております。一方で、講義のパワーポイントについては、これまでも配布はしていません。この授業は、教科書に沿って進めますが、教科書は「二次資料であり」、記載事項の元となっている行政資料や統計データのような「一次資料」に直接アクセスする習慣を身に付けてもらいたいと思っています。 そのために、manabaに「授業資料」として、それらの資料や掲載サイトへのリンクを貼っています。授業のスライドは、その日の授業の流れや、教科書の該当箇所を示すもので、あえていえば「三次資料」であり、内容の密度は「抜粋の抜粋」です。 スライドをそのままレジュメとして配布する授業とは、根本的な目的が異なっていると考えください。そのため、復習用および欠席者向けに、印刷受講は前提としないタイミングで掲載していますので、ご了承ください。 授業内で問題を解く時間はあまりとれませんでしたでしたが、授業に関連する課題をESS(eラーニングシステム)の演習として出題しました。 演習以外にも「自習」機能を使えばいつでも国家試験過去問題に取り組むことができます。 ぜひシステムを活用してください。

「2024（前期）食生活科学科 管理栄養士専攻」授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
公衆栄養学実習 b	佐々木 溪円	授業数を増やして欲しいという要望がありましたが、1単位は45時間という枠が大学設置基準で決まっています。今年度の実習では、保健所で行う実習時間数が最も少ない施設で実習する学生さんが基準を満たすように、事前授業時間を調整しました（授業内でお伝えしたことで重複します）。この基準時間内に収めるために、各校外実習科目では、毎年度内容の見直しをしていますので、次年度以降に向けて科目共通部分の重複を避ける構成にする等の調整を続けていきます。
公衆衛生学 a	佐々木 溪円	回答をいただきありがとうございます。予習復習の時間が少ないので、今後に向けて改善します。
校外給食実習	山岸 博美 富重 慶子	充実した実習となりますように、サポートします。
食品衛生学 a	大道 公秀	授業アンケートを読ませていただく限りでは、おおむね良好な評価をいただけたと思っています。楽しく授業に参加いただけている様子の学生もいたようなのでうれしかったです。この科目への期待をアンケートを読ませていただき感じました。ありがとうございました。
食品加工学 a	守田 和弘	総合的な満足度が全体平均より高いことから、満足に取り組んでいただけたものと思います。
食品加工学実習	守田 和弘	実習おつかれさまでした。総合的な満足度が全体平均より高いことから、満足いただけたものと思います。
食品学 b	松岡 康浩	食品学bは覚えなければならない内容が多く、投影の文字が小さくなり見にくかったかも知れません。配布資料や教科書を参考に、国試に向けて繰り返し復習してください。
食品機能論	松岡 康浩	食品の3次機能は管理栄養士として理解しておくべき内容なので、栄養生理学などの内容と関連づけて今後もしっかりと勉強を続けてください。
生化学 a	中村 彰男	「生化学a」は皆さんが中学や高校で学習してきた「理科」「生物基礎」「化学基礎」をおさらいしながら、大学の「生化学」への導入となる講義です。期末試験の平均点も80点近くあり、とても皆さんよく学べたと思います。後期の「生化学b」は本格的な学問への架け橋となる専門講義となります。また、「管理栄養士の国家試験」においても大変重要な部分となっています。そのため、わからないところはそのままにしないでいつでも聞いてください。専門科目を通して多くのことを一緒に学びましょう。
総合演習 a	鈴木 浩明 於保 祐子	総合演習aは、シナリオの病歴や身体所見、検査所見からどのような病態であるかを考えたり、鑑別診断を考えたり、栄養管理の方針を考えたりして、単なる復習のための演習ではなく、医療現場で働く管理栄養士に必要な能力を想定して設定されています。解釈や問題解決能力が要求されるため、戸惑うことも多かったのではないかと思います。穴埋めの講義プリントについては、穴埋がない講義資料をmanabaにアップロードしていましたが、周知が足らなかったかもしれないですね。一部課題に重複がありましたが、重要な部分ではあるので、再確認するという点では良かったのではないかと思います。今年度は、前任の先生のシナリオを使用させてもらいましたが、ブラッシュアップしていこうと思います。臨床栄養学は範囲が広いので勉強が大変とは思いますが、記憶を定着させ理解できるようになるためには繰り返し勉強するしかありません。わからないところ、あやふやなところはそのままにしないで質問するようにしましょう。頑張ってください。
総合演習 c	於保 祐子 高橋 加代子	ライフステージの特徴とその栄養学的基礎、それに合わせた栄養学的な注意についてそして実際の運用についてポイントを押さえる授業をしました。要点を確認したうえで知識整理に役立てばと思います。
総合演習 d	森川 希 山岸 博美	国試の重要箇所の理解が深まったといったコメントを嬉しく受け止めています。総合演習の目的は国家試験合格に限ったものではありませんが、様々なアプローチで問題を解くことを介して、各自が苦手分野を見つけ、結果的に得点が上げられるような工夫を今後も検討していきます。
調理学実験	数野 千恵子	入学して最初の実験であり、グループワークでしたが、これからもグループワークは増えるので積極的に輪を広げてください。『調理』の今までのイメージと異なり、実際の調理操作中に生じる様々な現象が、科学的に説明できるものであることを感じてもらえたのが良かったです。実習と理論をしっかりとつなげて考えられるように理解を深めてください。いつでも「なぜ？」の疑問を持って、考える態度を意識してみてください。

【2024（前期）食生活科学科 管理栄養士専攻】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
調理学特別講義	中川 裕子	課題提出状況もよく、みなさん熱心に取り組んでいました。 国家試験の対策となったという意見が多かったので、今後も国家試験を見据えた内容としていきたい。 配布資料やスライドに関してわかりにくかったという意見もあったため、今後改善していく。
特別講義 a	中村 彰男 寛 慎治	「特別講義a」は管理栄養士の国家試験でも特に重要で皆さんが苦手とする「人体の構造と疾病の成り立ち」「基礎栄養学」の部分を私と寛先生で担当させて頂きました。夏までに、皆さんが自分がこの分野でどここの単元が苦手かわからないかということを感じて、夏休みの国試勉強に繋げて欲しいと言う思いから、全ての単元で国試に良く出題される部分を抽出し、解説とテストを繰り返すことで理解できるように努めました。残念ながら合格点に達しなかった学生さんは自分ができなかった部分をさらに後期の勉強に繋げて欲しいと思います。
微生物学	守田 和弘	オンデマンド型の授業でしたが、総合的な満足度が全体平均より高いことから、概ね満足して学習いただけたものと思います。
臨床栄養学 a	鈴木 浩明	1. 課題が多いとの意見を複数もらいました。当初は、前任の先生にならって出していましたが、皆さんの復習の時間も考慮して、途中から10問に絞っています。臨床栄養学で学ぶ内容や国家試験で出題される問題の内容を考慮すると、各単元で10問の課題は最低限のレベルです。 講義は、聞いただけでは、分かったつもりになっただけで自分のものになっていません（臨床栄養学を理解できたと書いてくれた学生さんはとても多かったですが、多くの学生さんはわかったつもりになっていただけだと思います）。問題を解きながら自分の理解度をチェックするしかありません。課題を解いてわからないことがあれば質問してください。質問してくれた学生は、非常に少なかったです。 2. 穴埋めの枠が薄いというコメントも複数もらいました。穴埋めをすることに気を取られるよりも、講義に集中した方が良いです。そのために、穴を消したファイルを講義後にmanabaにアップロードしています。皆さんが穴埋めに気を取られてしまうようなら、穴埋め作業はなしにしようと思います。 3. 小テストの時間が10分では足りないという意見がありました。質問して、多くの問題は、知識を問う問題なので10分で十分と考えています。 4. 小テストを講義の冒頭ではなく講義の終わりに行ってはどうかという意見ですが、課題の理解度や記憶の定着度を見るために行っているのも、小テストは講義の冒頭に行くことを変えるつもりはありません。 5. プリントが不足した回があったのは申し訳なかったですが、助手に追加の印刷を頼んでも20分程度はかかりますし、その分講義をしないで待っているのは時間の無駄です。プリントのない学生さんには不利益を被らせて申し訳ありませんでしたが、プリントが来るまで講義をしなければ、あとにしわ寄せがくるので、まず講義を聞いてもらって、あとでプリントを渡した方が講義に出席していた全員にとって望ましいという判断です。
臨床栄養管理総論	高橋 加代子	この授業は、診療報酬や介護報酬など制度的な内容や、臨床的な医療用語など聞きなれない単語が多く大変だったと思います。また、薬剤と食品の関係などの知識を習得することも必要なため、わかりやすく例題をあげて説明し、理解できるように努めました。 皆さんからは、「資料と解説が分かりやすかった」「外部の講師の話がきけてよかった」等のコメントが多く、この形式での授業で進めたいと思います。 ですが、「少し早口なのでもう少しゆっくりだと聞きやすいです」等の意見もあり、この点に関しては以前よりはゆっくりを心がけて話していますが、まだ早いと感じている方もおり、今後もさらに改善を目指して授業を進めたいと思います。
臨床栄養管理実習	高橋 加代子	この授業は、校外実習に向けた内容で、臨床栄養学と献立作成に関する内容の融合となっており、授業終了後には皆さん方の成長がみられました。安心して校外実習に望めるように、求められる内容を凝縮して、授業を進めました。「病院実習に行くにあたって必要な知識や技術を身に付けることができて良かった。」「糖尿病や腎臓病の献立を考える中で、食品成分表だけを見るのではなく、調理員の気持ちを考える大切さを学んだ。」といった確かなコメントに感心しました。皆さんのコメントからも必要な知識の習得につながったと感じています。 今後さらに、説明の仕方授業の話し方等も含めて改善し、満足度の高い授業を目指したいと思います。何かあれば、授業の際に発言してくれると助かります。 皆さんの成長を期待しています。

【2024（前期）食生活科学科 管理栄養士専攻】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
臨床栄養管理実習	高橋 加代子	この授業は、校外実習に向けた内容で、臨床栄養学と献立作成に関する内容の融合となっており、授業終了後には皆さん方の成長がみられました。安心して校外実習に望めるように、求められる内容を凝縮して、授業を進めましたので、皆さんのコメントからも必要な知識の習得につながったと感じています。座学と違い、大変な作業もあったと思いますが、大体の方が授業に関して満足であるとの回答してくださっていました。ですが、資料の字が薄い、という指摘がありました。印刷物としては配慮して作成しましたが、大学での印刷機の問題もあり、紙代やインク代の学生負担を考慮して配布していましたが、今後はデータでの配布も検討していきたいと思います。 また、「レジュメと実習で配られたプリントに書いてあるのお茶とろみの作り方が違った」との指摘がありますので確認して修正します。ですが、このアンケートでコメントするのではなく、授業で教えてくれると助かります。また、「脂質異常症の献立作成の提出までの時間が短い」とありますが時間的には、他の授業と同じであり、授業での最後の献立作成となりますので、その能力の向上を目指してくれることを期待します。